

拡大版

谷津田いきもの図鑑 No.5 「谷津田で見られる春のトンボ」

網代春男（千葉市緑区）

小山町、下大和田の谷津で観察される春のトンボを紹介します。

越冬するトンボ

春、最も早く動き出すトンボは成虫で越冬するトンボで、ホソミイトトンボ、ホソミオツネトンボ、オツネトンボ、の3種がありますがオツネトンボは小山町でも下大和田でもまだ観察したことがありません。

ホソミイトトンボ 越冬型とやや小ぶりの夏型がありますが下大和田で観察したのは5月から7月なので越冬型なのか、夏型なのか判りかねています。越冬中の個体を観察していないので夏型の可能性があります。小山町でも見つけたいトンボです。レッドデータブックで千葉市・千葉県ともカテゴリーA(最重要保護生物)になっていますので少ないようです。名前のとおり、細いイトトンボの中でもとりわけ細長い姿をしています。

ホソミオツネトンボ 小山町、下大和田とも生息しています。この2種は夏に羽化してから翌春まで地味な枯葉色をしています。枯れ枝のように枝先や笹などにじっととまって冬を越しているホソミオツネトンボも暖かい日にはそっと林縁を飛んだりしている姿を見ることがあります。今年の4月1日の下大和田の観察会では私たちの山の中に枯葉色をした2頭がいました。この2種は春になって成熟すると空色に変わります。例年4月中旬になるときれいな空色に体色を変えた姿が見られます。



春に羽化するトンボ

春、最も早く出現するのはアジアイトトンボ、カワトンボ、シオヤトンボの3種で4月中下旬頃羽化します。この3種とも小山町、下大和田に生息しています。今年は生物の時計が早く進んだようで、3月31日の小山町観察会ではカワトンボが、4月1日の下大和田観察会ではシオヤトンボが観察されました。どちらも記録的な早さです。

アジアイトトンボ 小型のイトトンボでごく普通に田んぼで見られる代表的なイトトンボです。小さいので目立ちません。よほど注意していないと見落としします。雌が若いときの体色は赤橙色で成熟するにしたがって緑色に変わります（イトトンボ仲間には成熟するにしたがって体色を変えるものがたくさんいます）。4月から10月頃まで長い間発生しているトンボです。

カワトンボ 流水域に生息する体色に変化の多い、柔らかな優美な飛び方をするトンボです。谷津田の湧水、絞り水の流れる土水路が生息域になっています。雄の翅は赤橙色（基部は透明）をしたものと、翅全部が



透明なものがあります。雌の翅は透明です。羽化間もないものの体色は輝くような深い緑色をしていて、目の色も違っています。成熟すると金属光沢を持った金緑色、赤銅色などの体色になります。成熟した雄は全身蒼白い粉をふいたようになります。みんな非常に美しい体色をしています。赤橙色をした翅色の雄は縄張りを持った雄であるとか、雌は交尾した雄の精子を蓄えているがあとから交尾する雄は前の雄の精子を掻き出すとか、特異な生態を持っているトンボです。（千葉県

の一部には翅の色が白濁した型のものもいます。地域変異、個体変異、多型現象が重なって、種、亜種の決定には様々な論があります。従来はニシカワトンボ、ヒガシカワトンボ、オオカワトンボとしていましたが2004年12月にカワトンボとオオカワトンボに見直されました。小山町や下大和田に生息するものはヒガシカワトンボからオオカワトンボとなりました。DNA鑑定によるものなどで、見た目では両者の判別は難しいようです。各地域のカワトンボのDNA鑑定の進捗に伴って、今後、種や亜種が明確になってくるものと思います。(ここでは単にカワトンボとして記載しました。)

シオヤトンボ 誰もが「トンボ」と表現する普通の「トンボ」の姿・形をしています。4月にトンボを見たといえば先ずこのトンボです。誰にでもなじみのあるシオカラトンボ風をしていますのでシオカラトンボを見たとかムギワラトンボを見たと思う方もあるでしょう。雄は成熟すると蒼白い粉をふいたようになりいわゆる「シオカラ」色をしていますし、雌の方は「ムギワラ」色といわれる色合いのものです。お馴染みのシオカラトンボをふた回り小さくして、ずんぐり腹広にした姿をしています。雄は腹部の端の方までシオカラ色になっていますので途中から黒いシオカラトンボと容易に見分けられます。また翅の基に橙色斑があります。今年の4月14日には小山町の田んぼから一斉に羽化する壮観な様子が高山邦明さんにより観察されています。地面や低い所にとまることが好きなトンボで枝先や高い所にとまるようなことはしません。発生期間は比較的短く4月から6月くらいで、すぐ夏のトンボと入れ替わってしまいます。



5月にはシオカラトンボ、ヤマサナエ、オオイトトンボ、が羽化を始めます。

シオカラトンボ トンボといえばシオカラトンボ。全国どこでも広範に見られる代表的なトンボです。雌が産卵している上を雄が警戒して飛んでいたりする姿が田んぼで見られます。

子供の頃トンボ捕りは先ずこのシオカラトンボから始め、腕を上げてヤンマに挑戦したものでした。子供達にも馴染みの深いトンボです。

ヤマサナエ 流水に生息する大型のサナエトンボの仲間です。



下大和田では毎年、三面張りU字溝の同じ所でヤゴの抜け殻を見ます。このトンボは水際の石や護岸のコンクリート壁などで羽化する習性があるようです。羽化するとしばらくは周辺の林に入るので見かけるのは6月になって水路近くに出てくるようになってからが多いようです。出現期間は2ヶ月間くらいで比較的短い期間で見られなくなります。



オオイトトンボ 大型のイトトンボで空色に黒斑が入る美しいトンボです。下大和田の田んぼでは夏の間とても目立つイトトンボです。



田植えのころにはきれいになったホソミイトトンボやホソミオツネトンボ、小さなアジアイトトンボ、優美なカワトンボ、それにシオヤトンボが見られるでしょう。また、

5月に羽化するシオカラトンボ、ヤマサナエ、オオイトトンボも見られるかも知れません。谷津に生息するトンボを生息環境で見ると、流水域に生息するトンボ、止水域に生息するトンボとなります。流水域に生息するトンボはカワトンボ、ハグロトンボ、ヤマサナエ、オニヤンマで他の多数のトンボは殆ど止水域に生息します。小山町も、下大和田も、止水域といえるものは田んぼです。田んぼがトンボの生息の場そのものです。トンボが暮らせる湿田を維持する田んぼ作りは水辺の生態を守るとも大きな環境保全になっています。

参照図書 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、新やさしい トンボ図鑑

小山町のトンボ情報は高山邦明さん提供



里山たんけんレポート

第 87 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007年4月1日(日)晴れ/くもり

ウグイスが絶え間なく囀り、田んぼからはシュレーゲルアオガエルの声心地良く耳に響きました。冬鳥は繁殖地へ帰り始めているようで種も数も減っているようでした。斜面林はコブシに彩られ、畦や、道端も春の花でいっぱいでした。林床は満開のタチツボスミレやアカネスミレに続いてフデリンドウも満開になりました。湿地のツボスミレも、まだ地面にへばりついた状態ですがカキドオシやキランソウも咲き出していました。水もぬるみメダカも群れて田んぼや水路に出っていました。早くもシオヤトンボが現れ、越冬したホソミオツネトンボはまだ枯れ枝状の姿で見られました。ナナホシテントウ、キタテハ、など越冬昆虫もたくさん現れました。クサガメも出てきて木山慧君を喜ばせました。アオダイショウは冬眠から覚めたばかりか痛々しいほどに細い姿でした。ナナホシテントウの幼虫がカラスノエンドウについたソラマメヒゲナガアブラムシを食べていたり、オオタカに襲われたのかキジバトの頭が広場に落ちていたり、と、自然に生きるということの姿を目の当たりにしたりもしました。

(参加者 大人6名 小人2名; 報告:網代春男)

第 71 回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！田起こし」

2007年4月28日(土)くもり

強風が吹き、晴れたり小雨が降ったり不安定な天気でしたが、谷津の中は風もさほど強くなく、作業するにはちょうどよい気温の中、今年最初の田んぼの作業の田起こしをしました。連休初日にもかかわらず集まってくださった皆さんはやる気満々。あいさつが終わるとさっそくクワを手に田んぼに入って作業をはじめました。クワをふるうと泥の中からザリガニやヤゴ、オケラが出てきたり、稲株の陰からカエルが飛び出したり、田んぼは生きもので一杯です。子どもたちも田起こしや畦ぬりをお手伝いしてくれ、シュレーゲルアオガエルの声援も受けて田起こしはどんどん進み、お昼前には予定したコシヒカリを植える田んぼの田起こしを終えることができました。午後は生きものを観察したり、畦の手入れをしたり、子どもたちは泥んこ遊びをしたり、思い思いに晩春の一日を楽しみました。



(参加者 大人21名 幼児3名 小中高生7名; 報告:高山邦明)

第21回 小山町自然観察会

2007年4月22日(日)くもり

今回は千葉県生物学会の観察会と一緒に行われました。地元の植物に詳しい学会の方に野草の名前の由来など興味深い話を聞かせていただいたり、識別が難しいスゲの仲間を専門とする先生から見分け方を教えていただいたり、メモを取るフィールドノートがどんどん埋まっています。普段気づかない植物の存在に気づいたのも大きな収穫。参加した子どもたちが小さなバッタの幼生などをめざとく生きものを見つけてくれたのも大助かり。先生方も小山の自然の豊かさに改めて感激していらっしゃいました。斜面林ではウワミズザクラが華麗な花を開き、ホオノキが葉を広げはじめ、林床ではチゴユリがかわいい花を風に揺らしていました。田んぼでは大きく育ったアカガエルのオタマジャクシが元気に泳ぎ、もうじきに足が出そうです。一週間前にたくさん羽化したシオヤトンボは台地の上に集まっています。まだオスもメスと同じ黄色です。渡りの途中と思われるヤブサメのさえずりを聞きました。



(参加者 大人7名、小学生4人 + 生物学会メンバー; 報告:高山邦明)

谷津田・季節のたより

下大和田

- 4月 8日(日) 旅立ち前のアオジがさえずる(高山)
- 4月15日(日) アカハラがさえずる林の中からモズの雛らしき声が聞こえてくる(高山)
- 4月20日(金) 山の中にツクバキンモンソウ、ミツバツチグリ、キジムシロも咲き、日当たりが良くなってクサイチゴもいっぱい咲いていた。ホソミオツネトンボは空色に体色が変わり始める(網代)
- 4月21日(土) めずらしいへび、ジムグリを目撃(田中)
- 4月29日(日) ヤマサナエの羽化が始まる。ヒメクロオトシブミがイヌシデの葉で揺籃を作っていた。真っ赤なヨコズナサシガメも羽化(網代)

小山町

- 4月 7日(土) クロモジやモミジイチゴが満開の林の上空をサシバが鳴きながら飛翔(高山)
- 4月14日(土) シュレーゲルアオガエルが合唱する田んぼで多数のシオヤトンボが一斉羽化(高山)
- 4月30日(月) モズがセグロセキレイなどの鳴きまねを披露。シタホタルガの幼虫が発生(高山)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第72回 下大和田 YPP「コシヒカリの田植え」

コシヒカリの田植えをします。大人から子どもまでみんなでわいわいにぎやかに作業をしましょう。

日 時: 2007年5月13日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集 合: 中野操車場バス停に 10:00(JR千葉駅 10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴(泥深いので長め)、軍手、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主 催: ちば環境情報センター 共 催: ちば・谷津田フォーラム

第23回 小山町自然観察会と田んぼの整備

初夏の谷津を散策した後、6月の古代米の田植えに向けて、畦や水路の手入れなど田んぼの整備をします。

日 時: 2007年5月20日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴(泥深いので長め)、軍手、筆記用具など

参加費: 100円(資料代など)

第89回 下大和田6月の谷津田観察会とごみ拾い

花も、虫も、鳥も、命を謳歌しています。新緑に包まれた谷津田を散策しましょう。

クモの専門家を招いての観察会になりますのでお楽しみに。

日 時: 2007年6月3日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集 合: 中野操車場バス停に 10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主 催: ちば・谷津田フォーラム 共 催: ちば環境情報センター

